

■インタビュー テレビ和歌山 報道制作本部 制作部 崎濱 木実 様

Q1. 就職活動中にどのような企業を比較検討していましたか。

私は生まれ育った和歌山で、テレビの仕事がしたいって思っていたんですけども、テレビ業界っていうのはなかなか採用厳しいところではありましたので、全国いろいろ受けました。

Q2. なぜテレビ和歌山に入社しようと思われたのですか。

私は学生時代からきのくに和歌山国体大会だったり、和歌山県の観光キャンペーンスタッフだったり、いろいろ和歌山県内で社会活動をさせていただく中で、地元和歌山に貢献したいという思いが強かつたので、自分の好きや得意と、それから興味あることを掛け合わせてテレビで働きたいと思って入社しました。

Q3. ディレクターの主な仕事内容と1日のスケジュールはどのようなものですか。

ディレクターの仕事は、番組を作るという仕事です。作るといつても、考えるところから編集をするところ、ロケに行くところも、本当にゼロから全部するので、とてもやりがいがあります。1日のスケジュールは、毎日こうですといったのがあったら、落ち着くんんですけど、ロケの日も編集の日も打ち合わせの日も、本当にいろいろなので、入社してから今日まで全く同じだったという日はないです。

Q4. 崎濱様が普段制作に関わられている番組はどのようなものですか？また、番組作りはどのような作業や業務があるのでしょうか

「わかラ部」という番組と「和歌山ほっとインフォ！」という番組です。どちらも情報をたくさん取り扱うので、調べるところから、出演者の方と打ち合わせをしたり、撮った映像を編集したりやっています。

Q5. 入社してから、会社の雰囲気や、働き方で印象的だったことはありますか。

皆さん、話すことが好きな方が多いので、一緒に議論をしたりとか、アイデアを考えたりとかするのがとても楽しいです。

Q6. 会社の先輩や同僚から受けて励まされた言葉やエピソードを教えてください。

私は今ディレクターをしてるんですけども、やっぱり地元で育った人が、話すっていうことに、価値があるって思っているので、リポーターの仕事も、今年から始めてます。それをするってなった時に、やっぱり新しいことを始めることに、とても不安だったんですけども、先輩がしっかり、行ききつたら面白いし、誰も何も言わんから、精一杯やっておいでと、背中を押してくれて、自分のやりたいことを突っ走って、皆さんの協力をしていただいて、今こうして楽しく、そしてやりがいのある仕事が、できるんだなと思います。

Q7. 番組制作でやりがいを感じる瞬間はどんな時ですか。

出演した方とか、お客さんからの反響があった時です。例えば、お店を紹介した時にテレビを見たて人が来てくれたよとか、取材してくれて嬉しかったよとか、そんな反応があったら、とても嬉しくなります。

Q8. 学生時代に思い描いていた「テレビ業界」と実際に働いてみて感じたギャップはありますか。

やっぱり入職するまでは 全然見てない世界だったので、入ってみると本当に常にいろんなアイデアを出し続けることが大変なんだなと分かりました。

Q9. 学生から見ると、“テレビの仕事は体力的に大変そう”というイメージがありますが、その辺の実際はどうでしょうか。

制作部の仕事は、デスクワークもありますし、打ち合わせだったり、口ヶ取材だったり、本当に中も外も動き回ってばかりで、とても疲れると思うんですけども、私は動き回ることも好きですし、結構体力ある方かなと思うので、合っていると思います。

Q10. 仕事で大変だったこと、またそれをどう乗り越えたのか教えてください また特に女性として感じる壁や困難についてのエピソードがあれば教えてください。

一番大変なのは体調管理です。やっぱり女性ということで体調を崩しやすい時期が必ずありますので、そんな時、仕事を調整したりとか、周りの方に助けをお願いしたりして、日頃からコミュニケーションをとて、自分の体調管理もしっかりしながら、うまくやっていくということは、やっぱり大変だなと思います。

Q11. 若手として、自分の意見やアイデアはどれくらい番組制作で反映されていますか。

結構聞いてくれて、すごい嬉しいなって思いますし、柔軟な対応してくださる先輩方にすごく感謝しています。その分、やっぱり若手ならではのアイデアだったりとか、視点がすごく求められているので、普段からアンテナを張ることを大事にしています。

Q12. テレビ和歌山の「制作部」に向いている人の特徴は何だと思いますか。

やっぱり好奇心が、ある人かなと思います。やってみたいとか、面白そうとか、そういうポジティブな気持ちで仕事に向き合ってもらえたたらとても楽しめると思います。

Q13. 大学時代の経験で、今の仕事に活きていると感じるものはありますか。

和歌山県の観光キャンペーンスタッフを大学3年生の時にさせてもらって、県内いろんな場所の魅力を知ったりとか、それを県外の皆さんにアピールしたりとか、そうする中で自分もさらに和歌山が好きになりましたし、和歌山を盛り上げようとするたくさんの大人の人たちの熱意を見て、私もそなりたいって思いました。

Q14. どういったスキルや経験が、ディレクターとして役に立っていますか。

私は調べることが大好きで、旅行に行く時も、行き先のことについて、歴史だったりとか有名なもの、それから人口とかも、本当にいろんなことを調べるのが好きで、そうやってから行って有意義な時間を過ごすってのは本当にやりがいなので、普段からそういう自分だったことは今のディレクターとしての自分にも役立っているかなと思います。

Q15. 学生のうちに「これはやっておいた方がいい」と思うことや、アドバイスをお願いします。

たくさんの人と話して、本を読んで、いろんなことを勉強してもらいたいなと思います。

Q16. テレビ和歌山の一員として、学生時代の自分にアドバイスするとしたら、何を伝えたいですか。

私は和歌山で生まれ育ったので、和歌山県内でできることをたくさんしたんですけども、その人にあったその場所で、その環境でできることを精一杯やってもらいたいと思います。

Q17. 和歌山だからこそできる取材や企画で印象的だったことはありますか。

やっぱり世界遺産だったり、串本町の口ヶトに関する取材はもう和歌山県民としてすごい興味がありますし、関われてすごく誇りに思います。

Q18. 地元和歌山の人々と関わりながら番組を作る中で、嬉しかったことは何ですか。

やっぱり 今までお世話になった方に恩返しができることかなと思います。まだまだできることは少ないんですけども、取材してくれてありがとうとか、見てるよとか、テレビを見て元気をもらってるよとか、こんな風に自分を今まで育ててくださった和歌山県内の皆さんにちょっとでも力になれたらなと思います。

Q19. これからテレビ和歌山で挑戦したいこと、やってみたい企画はありますか。

女性のスポーツの中継をやってみたいです。やっぱり女子野球、女子サッカーなど、自分と同じ女性が輝いているスポーツ選手がたくさんいるので、その方々の輝きをもっと応援したいなと思います。

Q20. 今後、ディレクターやテレビ業界でどのようなキャリアステップを考えていますか。

これから今やっていることも確実にできるようになりながら、しっかりいろんな他から学ぶこともしっかり取り入れながら、できることを増やしていくならなと思います。

Q21. ディレクターとして忙しい日々だと思いますが、プライベートや趣味との両立て意識していることはありますか。

やっぱり元気でないと仕事も趣味も楽しめないと思うので、よく食べて、よく寝て、よく笑って楽しく過ごせるよう頑張ってます。

Q22.若い人向けのコンテンツや SNS 活用、デジタル施策などにも関わる機会はありますか。

今、若手社員を中心に SNS に力を入れていこうという取り組みが始まったところなので、私もそれにちょっとでも貢献できたらと思います。